

第一回総合計画・総合戦略推進会議 会議録

【日 時】 令和5年11月20日（月） 13:00~

【場 所】 南伊勢町役場南島庁舎 3F 第一・二会議室

【出席者】 委員長 村林 守 三重中京大学名誉教授
 副委員長 田畑 紀實 南伊勢町区長連絡協議会
 上村 由佳里 南伊勢町社会福祉協議会
 木下 和行 南伊勢町農業委員会
 小林 悦雄 南伊勢町老人クラブ連合会
 田中 由紀子 NPO 法人みなみいせ市民活動ネット
 玉山 寿美 一般社団法人みなみいせ元気ネット
 西岡 佳人 三重外湾漁業協同組合 神前浦事業所
 橋本 かおり 南伊勢町観光協会
 森 真美子 南伊勢町商工会
 広田 真理子 南伊勢町 副町長

事務局 弓場 悟 南伊勢町 まちづくり推進課 課長
 小山 将彦 南伊勢町 まちづくり推進課 係長
 松尾 早里 南伊勢町 まちづくり推進課 主査
 奥 夏海 南伊勢町 まちづくり推進課 主査

発言者	発言内容
副町長	<p><u>1 開会</u></p>
	<p><u>2 副町長挨拶</u></p> <p>この会議は総合計画・総合戦略推進会議という位置づけである。策定した計画を検討し、目的に沿って事業を進めていくために、今の進め方で、向かっている方向で目的が達成できるか、また別の方法はないか、日々検証しながら進める必要がある。今まで頂いた外部評価は当町の現状と照らし合わせるとすぐわないものもあった。その中で策定委員から、計画の進捗についても一緒にやっていって良いという意見を頂き、非常に心強かった。この後役場の内部評価を申し上げるので、見方の違いなども教えていただきながら意見を頂き、ぜひ総合計画を前に進めていきたい。</p>
	<p><u>3 委嘱</u></p> <p>(副町長、委員代表の上村委員に委嘱状をお渡し)</p>

	<p><u>4 会議趣旨説明</u></p> <p>事務局 (会議趣旨説明。推進会議設置要綱(資料1)、総合計画の施策514の抜粋(資料2)の紹介。総合計画の記載に基づき、当会議で総合計画の評価・検証を行うことを再確認)</p>
<p>まちづくり 推進課長</p>	<p><u>5 委員長及び副委員長選出</u></p> <p>(委員に事務局案(委員長:村林氏、副委員長:田畑氏)を提示。異議なしのため、委員長を村林守氏、副委員長を田畑氏に選任。)</p> <p>(会議進行をまちづくり推進課長から委員長へ交代)</p>
<p>委員長</p> <p>副委員長</p>	<p><u>6 委員長・副委員長挨拶</u></p> <p>委員長 総合計画を作る際、「オール南伊勢」で作るんだということで進めてきた。その考え方は当会議の作り方にも現れている。</p> <p>副委員長 最も嬉しいことは、会議メンバーと巡り会えたということである。一番必要なのは住民の熱意。与えられるものは残らない。地に残る者が未来を創っていくことが必要。この会議は行政の見本となるのではと思っている。行政で何でも解決する時代は終わった。これから住民が地域づくりの一翼を担っていく。</p>
	<p><u>7 議事</u></p> <p><u>(1) 総合計画全般に関する意見・感想</u></p> <p>委員 買い物困難については、移動販売が入ってきているため助かっている。もっと利用されるようにできないか。</p> <p>委員 総合計画について、前は計画作成後、計画を進めていくための歩道がなかった。今回の計画ではこのような場が作られた。冊子も見やすくわかりやすい。</p> <p>委員 買い物不便については移動販売の利用者増加を狙いたい。 「211 災害に強いまちの確立」について、防災訓練は夜間訓練やリヤカーで運ぶ訓練など、内容を充実すべき。 「225 生活環境の保全と環境美化」について、分別の際、ペットボトルのラベルを剥がすことを徹底してほしい。また、パッカー車の回収ゴミの組成調査を実施し、地区別の分別率等を分析すべき。</p>

委員	各地でイベントが行われてきており、町が明るくなってきたと感じる。ハード面では、バス停に屋根もでき、暗いトンネルにも明かりがついた。少しずついい形で町が前に向かっていくという印象を受ける。
委員	前回出た意見が今回の計画に反映されているのが嬉しく感じた。買い物不便では、移動販売があったとしても店舗がなくなると不便ではある。利便性を追求したサービスがあるとよい。
委員	総合計画の内部評価で住民評価が低いことについて、役場がしたいことと町民がやってほしいことに溝がある。町民の満足度に重きを置いてほしい。事業を行う前に、利用者の意見、ニーズを細かく把握し（どんな内容なら利用しますか？等）、誰をターゲットに事業を行うかを明確にして事業を行ってほしい。また、事業完了後も施設・サービス等がどのように使われているか調査し、フィードバックしていくべき。
委員	みなみいせまつりは大成功だった。ツーリング客も多く、SNSで町の情報も広がっており、観光できる町として認識されつつある。これから観光だけでなくいかに人に住んでもらうかを考えることが必要。また、一部では子どもがいないのに公園を作ってどうするんだという声もある。
委員	どうやって人に来てもらうか、コロナ明けで観光も盛んになりつつある。これを機にこちらのことを知ってもらえるようなことをできればいい。南伊勢は自然資源がそのまま残っており、そういったものをインバウンドは求めているので、インバウンド・国内の方にもこの町は知ってもらえれば必ず来てもらえる。観光が活発になれば、産業の活性化・移住の増加と繋がっていくと思う。
事務局	本年度より観光商工課からまちづくり推進課へ異動してきた。このような機会を頂いて、町内で活躍されている皆さまのお話を聞きながら勉強し、一緒に考えていきたい。
事務局	まちづくり推進課は3年目となる。今年度5月まで産休・育休で1年間お休みを頂いていた。まちづくりについては勉強中だが、今回の会議で皆さんの意見を聞かせていただいて学びとさせていただきたい。
事務局	昨年度の総合計画作成から委員さんにたくさん助けていただいた。委員さんから頂いた総合計画への意見をなるべく反映したく作成した。今回事務局の思いも伝えさせてもらう機会を設けたのは、オール南伊勢ということで、忌憚のない意見を役場職員・委員の皆さんから頂きたいとの思いがあったことによる。
まちづくり推進課長	計画は作っただけでなく声を形にすることが重要だと思っている。役場、皆さん、町外の方、みんなでまちづくりをしていくということは難しいこともあるが、今回町政懇談会で町長が、まちづくりとは『もっとこうなったらいいのにな』と考えることだと話されていた。明日が楽しみになるようなことを考えていくんだと思っている。皆さんと一緒に取り組んでいきたい。

副町長	<p>みなみいせまつりは人がたくさん来て、駐車場もすぐいっぱいになった。あの緊急事態の時、職員、漁協、商工会、観光協会、スタッフのみんなが「じゃあどうするか」を一生懸命考えた。しかし苦勞をしたが楽しかった。楽しく「なんとかしよう」と考える力は、すべての人が持っているものなんだと感じた。総合計画の進捗を測っていくことについても、進め方がいろいろある中で、皆さんの意見を聞いて話し合いができるといいと思っている。</p>
委員長	<p>普通、役場は「こんなことをやった」と言う一方、住民側は「こんなことができていない」と対立する形になりがち。しかしこの会議は役場の人も一緒に考えていく姿勢がある。個人的な立場や困りごととも言えるような場にしたい。自分たちも役場を問い詰めるようなことはせず、一緒に考えていくという姿勢でいきたい。</p>
副委員長	<p>皆さんの話を聞き「同志」なのだと感じた。役場のコメントも良く、2年でこんなに変わるのかと思った。まつりのとき、職員が生き生きとしていたことに驚いた。</p> <p>漁師の漁風景や、その土地の食べ物、コトが観光資源になる。自分たちがアピールして呼び込みすることが大事。</p> <p>この場は立場を超えて、仲間意識を持って話せる場にすべき。この会議は実践による手応えを得られるものにしたい。</p>
<p><u>(2) 総合計画内部評価結果を用いての説明</u></p>	
事務局	<p>(今会議は全施策、次回会議は2つの重点プロジェクトを議題とすること、資料にて総合計画内部評価結果について説明。(効果検証方法について(資料3)、総合計画内部評価結果(資料4)、第4次総合計画進捗状況調査シート(資料5))</p>
<p><u>(3) 質疑応答及び意見交換(検証作業)</u></p>	
委員	<p>防災訓練の際、山の高台の倉庫に期限切れのお菓子が入っていたのでみんなで運び出した。また、倉庫はある程度スペースがあり、個人的なものを置いてもよいが、自分以外の人はあまり置いていない。避難時に着の身着のままでも大丈夫なよう、個人的なものを置いてもよいことを周知すべき。</p>
副町長	<p>倉庫の使い方は各地区でいろいろで、話し合っておられる地区もあるが、全くそういったことをされていない地区もある。町政懇談会等で、地区により温度差が大きいことがわかった。</p> <p>また、元々倉庫は個人の荷物を置いてもいいようになっていたが、それが伝わっていなかったため、皆さんへのお伝えがしきれていなかったと感じた。</p>
委員長	<p>防災訓練の参加率が高いので、その時に周知するのがよいのではないか。</p>
委員	<p>空き家は減少(成約件数が増加)しているが、地元民は悪い人が入ってくるのではと心配す</p>

	<p>る人もいる。買い物弱者対策としても、近所の人が買い物弱者を助けて代わりに買ってくるなどができるが、その人が一度悪いことをしてしまったら信頼関係もなくなる。移住者を受け入れる際、道徳的なこともちゃんとしないといけない。</p> <p>また、町外に働きに行っている人の支援もあっていいと思う。</p> <p>エコラベルやブルーカーボンなどは、本当に環境対策に効果があるのかと疑問に思う。</p>
委員	<p>町内13ヶ所で行われているえるが教室は、毎年秋に防災に関するアンケートを行っており、その集計業務を自分が行っている。集計結果は高齢者支援課に渡しているが、昨年と同じ内容を書いている人がいる。アンケートに書いてもらった個人的な相談を、相手にフィードバックできていないのではないか。これらの相談は防災課や区長に届いているのか。対策できているのか。</p> <p>また、地区の避難路整備はどこがやるのか。</p>
副町長	<p>3.11の後、避難所の決定は各地区で行った。整備は区にお願いしている。草刈りが大変なこと、当時は上れた坂を10年経った今は上るのがきつくなっている人も多いことが課題。現在避難路の見直しを行っている。</p>
委員	<p>スケボーパーク近くの避難路を確認した際、人が入れないような状態だった。パークに来た人やかえで作業所の方が逃げられるように避難路情報の共有をしたいので、例えば穂原小学校を1次避難場所にするなど、機能する1次避難場所を明確にしてほしい。</p> <p>また、空き家やドッグラン、キャンプ事業をするために土地を探しているという人の話を数件聞いた。町で土地バンクのようなことをやってはどうか。</p>
まちづくり 推進課長	<p>令和5年度から、宅地バンクを始めた。まだ登録件数は少ないが増やしていく予定。</p>
副町長	<p>事業用地はまだ手をつけていない。宅地は制度的に始めやすかったことがあり、まず手をつけた。</p>
委員	<p>相談を受け、自分が土地の所有者など調べていたが、いろんな問題が出てきてうまくまとめられなかった。素人がやるより役場などが担当してくれる方がうまく進むと思う。</p>
副町長	<p>役場は新しく宅地バンクを始めたので一歩進んだと思っていたが、今回の話を聞いて事業の進め方はそういうこと（実際のニーズが何であるか把握して事業を行わないといけない）だなと思った。この話は進んでいくと思う。</p>
委員長	<p>何でも相談できて各担当に繋ぐ役目を担う総合窓口があると、移住定住や企業誘致で非常に強くなる。企業としては従業員をどうしたらいいか（住居や子どもの通学など）確認する必要があるので、それらがワンストップでできるとよい。</p>
委員	<p>漁業について、藻場がなくなり魚が減少している。藻場再生に取り組んでいる場所とそうでない場所がある。漁業は町一番の産業なのでもっと力を入れてほしい。</p>

	<p>また、子育てに関しては入学祝い金、給食費無償化は大変ありがたく、今後も続けてもらいたい。通学費等支援を町外の親戚の家から通う子にも拡大してはどうか。買い物支援について、地域に必要とされている店はそのような事情を考慮しながら支援いただきたい。</p>
委員	<p>職場体験で漁業は体験できるか。</p>
委員	<p>既に行っている。危険な仕事はさせられないので、船に乗って行動を共にし、作業内容を見てもらっている。こういう場所でこんな風に魚が泳いでいるとか、リアス海岸の地形、山から流れる恵みを海に頂き、そういったミネラルがあるから養殖ができること、魚をさばくことで命を頂いていることを学んでもらっている。</p>
委員	<p>漁業だけでなく、農業、林業でも、実際に体験できることが良い。大人はどんなことを考えてどんな風に仕事をしているのか、知れる機会があるといいと思った。</p>
委員	<p>高齢者、若者、世代間、地元中心になって集まり、コミュニケーションできる場を作る必要がある。行政は町のまつりなどを実施して取り組んでいるが、住民側からもそういった取り組みが必要。</p> <p>防災訓練については、役場が中心になって参加人数でなく中身を充実させた内容にしていくべき。各地区の自治防災組織はほとんど機能していない。</p> <p>また、大江や河内、押洲などにいるホタルを保護するため、餌となるカワニナの放流を行うのはどうか。</p>
委員	<p>宅地バンクについては、令和4年度に法改正があり、面積制限はあるが宅地だけでなく農地も一緒に求めてもらえるようになった。南伊勢町の土地は、水田が80ヘクタールであるのに対し、100ヘクタールが耕作放棄地となっている。また、ソーラーパネル等を設置し、税収アップに活用してはどうか。</p> <p>また、障がい者に農業に携わっていただくなどの農福連携に力を入れるべき。町内施設だけでなく、三重県下の福祉事業所の方に来て頂いて取り組むのがいいと思う。自分は障がい者施設を健全者が訪ねて何かしてあげるといったやり方が好きではない。一つのことを一緒にやるというのが良い。11月29日にかもめ作業所の方がネギを植えに来てくれる。対価は事業所が設定した額を自分が支払っている。南伊勢町が目指す方向性は、優しい町であってほしい。そういった取り組みで町を盛り上げるのも良いと思う。</p>
委員	<p>介護について、社協では福祉有償運送を南勢地区で行っている。この事業を行うには、県へ数日間のドライバー研修に行く必要があるが、尾鷲市ではその研修を県から市が委託されて行うことで従事者を増やしている。また、事業所職員が車を使っていない時間にドライバーに使って貰えれば良いと思う。</p>
副委員長	<p>総合計画内部評価結果（資料4）の2ページ「まちのにぎわいと活力を生み出す拠点づくり」1. 中の文章表現について、「民間の力も」という表現では役場が民間を上から目線で見てるように感じるので、「民間の力こそ」という表記であるべき。</p>

副町長	サウンディング調査は事業を行うための一番初めの段階で、立場によらず様々な意見を聞いて参考にするためのもの。取り組んでいることは民間の活力に頼って内容を検討していこうというもの。そのため、「も」に他意はない。
副委員長	オール南伊勢ということなら、立場も超えて同じレベルでという思想ではないのか。
副町長	行政は市場原理がわからないので、民間にどんどん話を聞きに行き、自分たちだけで考えるのはやめた。
副委員長	一緒にまちづくりをやりましょう、という表現がよい。意図はないと思うがどこかで思想が反映されているとよくない。「そういったことに配慮してもらえるとよりありがたい」ということ。
委員長	民間の意見を取り入れながら検討を進める、という表現になるのでは。
事務局	今まで民間の意見を取り入れて進めるということをやってこなかったもので、そういったこともやっていきたいという意味で書いたものだが、おかしい表現になっていた。
	<u>8 その他</u>
事務局	<p>次回の会議について、取り上げる2つの重点プロジェクトは「活力ある産業・経済プロジェクト」と「買い物不便・困難対策プロジェクト」はどうか。</p> <p>日程は、1月22日（月）13時から 南勢庁舎 を予定している。</p>
委員長	次回の会議の議題は、提案された「活力ある産業・経済プロジェクト」と「買い物不便・困難対策プロジェクト」についてとしたい。
	<u>9 閉会</u>
	—終了—